

A Case of Acute Renal Failure as a Side Effect of Valacyclovir in an Elderly Patient with Progressive Supranuclear Palsy

Yoshiaki Yamamoto¹⁾²⁾, Ayako Suganuma²⁾, Nobuyuki Mishima¹⁾, Chiharu Horibe²⁾, and Yufuko Saito³⁾

Abstract We report a 74-year-old woman with progressive supranuclear palsy who developed low blood pressure, gastrointestinal dysfunctions, and acute renal failure after oral administration of 3 doses of valacyclovir (1000mg) for the treatment of herpes zoster on February 5th, 2008. Her creatinine clearance was estimated at 72.3ml/min by the Cockcroft-Gault equation before starting valacyclovir. Despite receiving the correct dose, her serum valacyclovir level increased to 15.2 μ g/ml and serum creatinine was 3.25mg/dl. After 14 days, valacyclovir-induced renal impairment resolved with fluid replacement therapy and intravenous administration of dopamine. We should pay close attention to valacyclovir therapy in elderly patients.

今月の 用語 隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【ABPA】

- 和 アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
英 allergic bronchopulmonary aspergillosis

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症（以下 ABPA）は、肺内（とくに気管支内）に存在する、真菌の一種であるアスペルギルスに起因する免疫反応を介して引き起こされる症候群で、末梢血好酸球増加と肺浸潤影を特徴とするいわゆる PIE（pulmonary infiltration with eosinophilia）症候群のうちの代表的疾患である。1952年 Henson らによって、気管支喘息、末梢血および喀痰中の好酸球増加、胸部 X 線上の一過性肺浸潤および褐色粘液栓を主徴とする症候群として最初に報告され、その後報告が相次いでいる。同様の病態は、アスペルギルスのみならず、カンジダなど他の真菌によって生じることもあり、この場合は、アレルギー性気管支肺真菌症：allergic bronchopulmonary mycosis（ABPM）と総称される。

ABPA は、Gell & Coombs 分類の I 型、III 型および IV 型の免疫反応で生じることが明らかとなった。I 型反応により、抗アスペルギルス抗体による皮内反応陽性や総 IgE 抗体値の上昇が生じ、III 型反応によって生成されたアスペルギルス抗原・抗体免疫複合体が、気管支に捕捉されることにより特異的な中枢型気管支拡張像を呈する。肺組織にみられる肉芽腫所見は IV 型反応の結果とされる。

ABPA の診断には、現在でも Rosenberg らが 1977 年に提唱した診断基準が用いられることが多いが、診断技術の発達などで現状と合わないとする意見も多い。これについては、今号における小川の総説に詳述されている（p695～p701）。

ABPA の治療として最も有効なものは副腎皮質ステロイドであり、喘息症状の軽減および胸部陰影の改善をもたらす。しかし、一部には重症の肺線維化に移行する症例もあり注意深い観察が必要となる。感染症的な側面より抗真菌剤の有用性を指摘する意見もあり、これも上記小川の総説を参照されたい。

関連団体：日本アレルギー学会、日本呼吸器学会、日本気管支学会 庄司俊輔（東京病院）
本誌695p に記載